

安田侃さんの「街に触れる」見た？

中島公園・狸小路などに 22 体 11月20日まで

札幌の街に大型の大理石やブロンズの彫刻 22 体を配した(既設を含む)例のない規模と広がりをもった野外彫刻展が開かれています(会期は 11 月 20 日まで)。彫刻の作家は当会会員の安田侃さん。イタリア北部のピエトラサンタを拠点に制作を続け、これまでミラノ、フィレンツェ、アッシジ、ローマなど数々の野外彫刻展を開催するなど、作品を都市や地域の人々と結びつけてきました。今回、故郷の北海道で国内でもこれまで最大級の彫刻展として実現しました。



「天泉」にもぐり込んだり周りを走り回って遊ぶ子供たち＝中島公園で

彫刻の配置は、「妙夢」が置かれている札幌駅から中島公園までと創成川公園の 2 本の南北のライン。狸小路、大通公園と道庁赤レンガを基点とする北 3 条通の 3 本の東西のラインという壮大なスケール。

9 月 3 日のオープニングの挨拶で、安田侃さんは「見慣れた風景の中で、ある時、彫刻と不意に予期しないで出会う。そこに何が生まれるか。私の究極の作品たちは人を無心にし、その心を映し出してくれるでしょう」と語っていました。

彫刻の回りでは、子供も大人もそっと触れたり、なで回したりして遊ぶ風景が見られます。街に彫刻がある生活の意味は、むしろ、野外展の閉幕後、作品が撤去されてからの喪失感が物語るのかもしれない。

総会・サローネ ランベッリさん講演 イタリアは脱原発を選択

北海道日伊協会は年次総会とサローネ・ディタリアを 7 月 8 日夜、札幌グランドホテルで開きました。

総会では 2010 年度決算を承認、11 年度事業計画と予算を決定のあとサローネに移り、カリフォルニア大サンタバーバラ校教授で、札幌に帰省中のファビオ・ランベッリさんの「イタリア原発問題」の講演を聴きました。ランベッリ教授はイタリアが国民投票で脱原発を選択した背景を解説、「原子力を選択することは悪魔と契約すること」と指摘し、日本にも脱原発を選択するよう訴えました。質疑も活発でした。

イタリア統一 150 年 記念講演会 「安田侃が語る イタリア生活 45 年」

11 月 21 日(月) 午後 6 時 札幌テレビ塔 2 階会議室 主催 北海道日伊協会、北を語る会

みべ音楽院創立 25 周年記念メモリアルコンサートを今年の 7 月 1 日に無事終了出来ましたのも、多くの方々の温かいお心とご協力して頂いたお蔭の賜物と心から感謝の気持ちで一杯です。

この 25 年のみべ流の歴史の中で、多くの門下生が地方、日本、世界に羽ばたいて歌っている姿は、感激と幸せ冥利に尽きます。

ヨーロッパから帰国して札幌にみべ音楽院を創ろうと思ったのは、主人は 47 歳、私は 42 歳。30 年近くも留守にしていた故郷、札幌で一から生活始めようと大胆にも大計画を立て、当時起ち上げる事ばかりの思いが強く、日本に居る友人達に何度も文通で連絡取り情報集め、不安よりもただただ必死の日々でした。

帰国して一旦は東京の我われの家に住み建築の打ち合わせしながら 1986 年、札幌の実家の場所にみべ音楽院設立。落成式は、みべ音楽院のホールで立食形式パーティで皆でワイワイ！その皆でワイワイ族が、その後我が家のビルの屋上で何度もバーベキューしながら、飲んで親睦図り・・・と。みべ音楽院開校に当たり、パンフレット作る事から始まり、講師面接対応、ピアノの準備等など。やがて生徒がひとり、ふたりと増えて・・・。

その頃の札幌の音楽事情は、イタリアで学んだ声楽の方がいらっしやらない時期で、随分珍しがられました。

偶然でしたが、私の叔父であるテノール、奥田良三もローマのサンタ・チェチーリアで学んでおり、時代は違えど、同じ志だったのは不思議な気がします。同志が身内にいる事は心強く、当時とても刺激になりました。

叔父は 70 歳過ぎても一生懸命ドイツ語を学び、ドイツ歌曲を本番に歌う。きれいな発音でアンブ(暗譜)、特に組曲シューベルト「美しき水車小屋の娘」が得意でした。ある日こんなこと私に言っていました。「あきちゃん、僕・・・兄貴の墓でこの曲 20 回も歌ってきたよ！兄貴に聴いてほしかったんだ」と。父のお墓の前で歌っている叔父の姿。想像ただけで胸いっぱいになりました。そんな心の優しい、そして努力家で実直で勤勉家でした。叔父はあの世でまだまだ歌い続けて

人生！音楽の旅

⑪

三部 安紀子

音楽院の仲間たち

羽ばたく門下生カップルも誕生

いるでしょう。いつまでも・・・

私達夫婦が理想とした音楽面、そして苦勞したけれど出来なかった面等を夫婦で話し合いながらのみべ音楽院は、まさに二人三脚の我われの在り方でした。やり方が違うと、生徒の前でお互い遠慮なく爆発することも度々。でも充実した日々でした。

門下は今、イタリア、ドイツ、アメリカで各々生活している連中もおり、実に頼もしく、人生の基盤を札幌から発信出来た事に幸せを感じます。

バリトンの堀内康雄氏も主人がとても応援して「イタリアに行って来い！君なら素材も良いし・・・」と太鼓判押していました。その後、彼はコンクールを数々受け、ミラノのベルディ音楽院で

学び、イタリアを根拠に世界の劇場で歌い始めたのです。奥様はピアニストで、我が家で知り合っの結婚！とっても素敵なカップル！



25 周年コンサートで指揮する筆者

もうひとりのスターは、ソプラノ針生美智子さん。大谷短大出てから国立劇場の研修生を経てイタリアに学びました。最近では東京を中心に仕事も増え、11 月 12 日東京の日生劇場でオペラ「夕鶴」に主役で出演します！

これからも音楽通して、各々の人生が有意義に過ごせるように、少しでもアドヴァイス出来たらなあ・・・と思っています。

(会長、北海道二期会理事長、みべ音楽院長)

イタリア統一 150 年記念講演会

「安田侃が語る イタリア人生 45 年」

11 月 21 日 (月) 午後 6 時から 札幌テレビ塔 2 階会議室 会員は無料
美唄出身でイタリア在住の彫刻家・安田侃さんにゆっくり語っていただきます (1 面参照)
講演に先立ちゴスペルシンガー **NATSUKI** さん (会員) が歌ってくれることになりました。
会員以外の方も聴講できます。どうぞお誘いください (会費 500 円=飲料付き)

主催 北海道日伊協会、北を語る会 後援 北海道新聞社 協賛 伊藤園、大塚製菓

北海道二期会オペラ公演「まほうのふえ」 北海道二期会の平成 23 年度オペラ公演は「さっぽろオペラ祭 2011」の一環として 11 月 11 日 (金、19 時開演) と 12 日 (土、13 時 30 分と 18 時開演) に札幌市教育文化会館小ホールで 3 回上演されます。モーツァルトの傑作歌劇「魔笛」を、初めての人でも楽しく観賞できるよう抜粋のうえ全 2 幕日本語の舞台につくられました。教科書にも載っている、誰でも知っているメロディーが、次々にオペラ歌手のナマの歌声で登場します。家族で楽しめます——と、主催者は呼びかけています。入場料は一般 3500 円、子ども 2000 円。

チケットは二期会ホームページ: <http://www.hokkaido-nikikai.com/> から購入できます。

北-ヴェネツィア美術館 特別企画展

ガラスに宿る

開催中

命と愛のかたち展

ヴェネツィアガラスの巨匠たちが「家族」や「女性」などをモチーフに、高い技術と豊かな色彩、柔らかなデザインを駆使して「命」や「愛」というテーマを表現した作品を一堂に紹介しています。館長金指さんがお待ちしています。

11 月 28 日 (月) まで。年中無休

一般 600 円 中高生 500 円 小学生 400 円



編集後記

43号(6月)のあと、ランベツリさん

のサローネ、古賀先生のセミナー、そしてこの会報が発行される頃にマリアンナさんのサローネ(30日)と、勉強会が続きました。日本の3・11震災と原発爆発、ギリシャの財政破綻で火がついたEUの混乱、そして「アラブの春」。歴史の節目になる出来事を引きずって2011年も初雪を迎える季節になりました。

脱線しますが、編集子の夏休みの山登りを紹介。年に1回、高いところの上りたい、からだを使って自然にどっぷり浸かりたい、それだけの動機です。この夏は十勝連峰縦走コース。十勝岳温泉から上ホロカメツク山を目指し、登頂のあと、少し下の避難小屋に宿泊。2日目がつい。十勝岳に登り、尾根伝いに美瑛岳山頂(写真上、奥に見える)へ。瓦礫とハイマツの斜面を下り、雲ノ平から望岳台に帰着。私は遅いから、古希にして初めて1日に8時間半歩きました。

噴火の瓦礫にしがみついて一面に花を咲かせるエゾノコザクラ(写真下)の懸命さに心打たれます(金子)

